

元時津風親方を逮捕



暴行に関与したとされる兄弟子2人を乗せ、愛知県警春日井署に入る車 = 7日午後7時19分

力士急死 兄弟子の3人も 傷害致死容疑で愛知県警

大相撲の時津風部屋の序ノ口力士、時太山(ときたいざん)＝当時(17)、本名斉藤俊(たかし)さん＝が昨年六月、愛知県犬山市でけいこ後に急死したのは制裁目的の暴行やけいこが原因として、県警捜査一課と犬山署は七日、傷害致死の疑いで元時津風親方(元小結双津竜)の山本順一容疑者(57)と兄弟子三人を逮捕した。



元時津風親方
山本順一容疑者

県警は、死亡前日の兄弟子らによる暴行と当日のぶつかりげいこが、しつけや一般のけいこの限度を超えた傷害行為に当たると判断した。日本相撲協会に残っている資料によると、けいこをめぐって親方経験者や現役力士の逮捕は初めて。二日間の暴行に加わった兄弟子計六人のうち、ぶつかりげいこにだけ加わった三人は、県警は逮捕せず書類送検する。調べでは、山本容疑者

は昨年六月二十五日、部屋から逃げ出した斉藤さんをビール瓶で殴り、兄弟子に「おまえらもやつてやれ」と指示し、兄弟子三人が金属バットなどで暴行。翌二十六日にも山本容疑者の指示で、兄弟子計五人が、通常五分程度のぶつかりげいこを三十分以上も続け、倒れたらけるなどして斉藤さんを死亡させた疑いが持たれている。新潟大や名古屋大の死因についての鑑定で、暴行による「多発外傷性ショック」と判明。県警は二日間の外傷の積み重ねが死因になったと結論付けた。県警の任意の事情聴取に、元親方はぶつかりげいこについて「通常のけいこだった」としたが、兄弟子の一部は「制裁目的だと思った。けいこを逸脱していた」と供述したという。